



有松まちづくりの会役員会（3月28日）

冒頭、3月21日に開催されたシンポジウムに関して竹田会長から協力への謝辞があり、これからも日本遺産のまち有松の事業をまちづくりの会として支援していく事を申し合わせしました。

本年度の総会については、記念講演は無しとする（コロナ禍の為）部長会案が承認されました。



折り紙作品：松柏苑

有松日本遺産シンポジウム 開催（3月21日）

「後世に語り継ぎたい有松の美」 有松・鳴海絞会館

基調講演 ジェレミー・ハンター氏

パネルディスカッション

進行役 佐藤久美(大学教授)

出席者 山上正晃(山上商店)

加藤明美(有松あないびとの会)

藤井ショウジ(染色家)

村瀬弘之(スズサン) 敬称略



加藤明美 村瀬弘之 藤井ショウジ 佐藤久美

有松日本遺産事業の締めくくりとして、「有松の美」をテーマにシンポジウムが行われた。基調講演「The Power of "美"」の後、4者から「わたしたちが思う『有松の美』」をテーマにお話をいただいた。有松の未来30年において大切にすべき美意識・価値観などが語られた。



参加者は会場約60名(オンライン配信あり)。山上氏はオンライン出演。

ジェレミー・ハンター 山上正晃

「日本遺産の町・有松」撮影会（3月5日）

「いつもと違う」有松を撮影し続けているフォトグラファー岡崎リョウタ氏による全3回シリーズの最終回。春の陽気となったこの日13名の参加者が撮影にいそしんでいました。

「日差しが強いので、影を撮るのもいいですね」「奥行きを出すには斜めで撮ること」など実践的なアドバイスをされながら撮影会が行われました。

2時間の撮影後、講評会。



影

撮影風景

左:岡崎リョウタ氏

有松福よせ雛さんぽ道2（2月20日～3月21日）

年々注目度を増しているようです。まん延防止期間中ではありますが、今年も開催初日から、多くのカメラマンが有松にやってきました。一軒一軒時間をかけて撮影されている姿が目立ちました。蔵で遊ぶ人形など工夫した展示が見られました。

今年の注目作品は、冬季オリンピックで話題になった選手を題材にしたもの。川口邸の壁面に飾られていました。「カーリング女子の活躍に触発され、主人が一晩で作りました」とのこと。

福よせ雛を展示している民家や商店では年毎に凝ったものが作られるようになり、有松のまちに賑わいをもたらしています。このような取り組みがメディアの関心をひいたのでしょう、NHKニュースで全国に放映されました。

※ 3月6日には下記の関連イベントが開かれていました。

● **アリマツマーケット:** 天満社や祇園寺に多くの店が出店され子供連れ等で賑わっていました。



天満社上の広場の様子

● **散策会:有松を歩こう**

緑生涯学習センター主催。

大高・有松・鳴海・桶狭間の4地域をベテランガイドと歩く4回シリーズの企画の2回目。有松を20名の方が、あないびとの案内で"2時間"たっぷり散策しました。普段通らない五番蔵小路も歩き、参加者は満足そうな笑顔を浮かべていました。



彩 AyaIrodori 前での撮影風景



カーリングを楽しむ

蔵で遊ぶ

おこしもんづくり（2月28日）

NPO法人コンソーシアム有松主催で今年も行われました。会場のカフェ庄九郎で3組の親子8人がおこしもんづくりに励んでいました。米粉を入れたビニル袋にお湯を注ぎます。感染予防のためボウルでこねるのを袋に変えたそうです。木型にラップを敷いて生地を乗せ、手で押さえつけ、型から外して綿棒で着色後、蒸し上げます。小さなお子さんでも楽しんでいました。この日参加者を5回に分けて実施されました。この地方で桃の節句に作られてきたおこしもん、いつまでも伝えていきたいですね。



お雛様の木型と
作業風景

平子小3年生 有松で地域学習（3月11日）

平子小学校では、毎年3年生が学区及び周辺地域を学びに校外に出ます。今年も80名の皆さんが、平子コース・鳴海コース・有松コースに分かれて出発。有松にも25名が訪れました。体全体で有松を感じ取っているように感じました。「電線がないね」「天井の木は太いよ」「下の屋根(庇ひさし)、出っ張っているね」「丸いポストいいなあ〜」など次々と有松を「発見」していました。案内は有松あないびとの会の皆さん。

なお、学校出発前に子供向けリーフレット「日本遺産のまち 有松」が配られていました。



質問タイムひと時

長坂道を歩こう（3月13日）

有松グリーンハイツ集会所で、南医療生活協同組合(有松・東陵ブロック)主催の「健康フェスティバル」が行われました。フレイル予防についての記念講演の後、長坂道を歩く散策会が実施されました。11:15に出発し約1時間、集会所から長坂道を通って祇園寺で東海道に。途中岡家住宅に寄って絞会館まで歩きました。参加者は約20名。3班に分かれ、あないびとの会の説明に耳を傾けながら、そして参加者同士「昔は〇〇だったよね」と懐かしみながらの楽しいひと時でした。天候にめぐまれ気温23℃、暑かった。

長坂道は東海道が整備される前からの古道。歩道橋付近は人がやっとすれ違う細い道で両側に民家や畑が広がる昔ながらの景観でしたが、今回歩いてみて、道幅が広げられ新築家屋も少なくなり畑地は整地され赤土がむき出しになっていました。伊勢神宮の遥拝所の面影は消えていました。



上:長坂道 下:岡家住宅

有松天満社 春季大祭（3月20日）

天候に恵まれ、多くの参拝者が訪れていました。今年の話題①東町狸々のうちわを新たに作るため、献書を呼びかけていました。話題②グランパス君がチームスローガン「未来へ」をご奉納下さいました。名古屋グランパスの益々のご活躍を祈願し、応援メッセージを贈る取り組みがされていました。

献書の様子



グランパスへの
応援メッセージ



左:幟と屋台
中:上の広場の様子
右:境内の様子



有松町並みツアー（3月20日:春季大祭同日）

有松東海道に久し振りに活気が戻ってきました。岡家住宅では館内案内だけでなく、11時からの定時ツアーに向けあないびとの会の皆さんが活動・待機していました。初回は参加者5名。ご案内される表情も生き生きとして、もちろん参加者は満足顔。以後14時間までツアー実施。



一里塚で清掃活動（3月16日）

有松天満社の春季大祭を前に一里塚の清掃が行われました。有松まちづくりの会やあないびとの会の皆さん約20名の方が、塚の周りの芝生を刈り込んだり雑草を抜き取ったりしていました。皆さん集中して1時間半でゴミ袋20程。きれいになりました。

10年前302号線高架下に復活した一里塚、榎の幹は少しずつ太くなり周りの笹も背丈に迫ってきています。



有松文芸のこみち⑤ 山村幸雄

有松旧東海道沿いに歌碑が7基ある。

今回は中濱商店前にある加茂季鷹の歌碑を紹介。

『 上代より 千世の契りや 有松の

千しほ八千しほ くくり染けむ

加茂季鷹 詠 平成十六年四月吉日 夢興書 』

作者 加茂季鷹（かもの すえたか、1754~1841）

江戸後期の国学者。京都生まれ。姓は山本、号を生山・雲錦。和歌を有栖川職仁親王に学ぶ。江戸で歌人・文人と交わり、京に帰って上加茂の祠官となる。



中濱商店前の加茂季鷹の歌碑

狂歌を得意とし、居を雲錦亭と名づけ歌仙堂を設け、文庫に数千巻の書を蔵した。

〈歌が詠まれたいきさつ〉

江戸後期に加茂季鷹が竹田庄九郎家に立ち寄った折、詠んだといわれている。

〈設置について〉 設置時期 平成16年4月

設置者 中濱夢興氏（中濱商店前当主中濱郁雄氏、号は書城会より命名）

設置理由 有松東海道の町並みに何か詩情をと思い設置

歌碑石 那智黒石、縁起が良い石ということで昭和30年に庭石として購入。のち歌碑に転用。

催事・行事の予定

4月18日(日) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

4月24日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

4月25日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

4月下旬 絞りの鯉のぼり展示 有松東海道沿い 同実行委員会

発行者 竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤 明美(有松まちづくりの会 広報部員)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。有松のまち で検索

